千代田化工建設株式会社
グローバル本社
〒220-8765　横浜市西区みなとみらい四丁目６番２号
みなとみらいグランドセントラルタワー
www.chiyodacorp.com/

2026 年 11 月 5 日

千代田化工建設株式会社
財務企画室　IR グループ

2027 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会 質疑応答要旨

11月4日に開催致しました2027年3月期 第2四半期決算説明会（オンライン）において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	【利益率改善の背景】	
	Q2 実績、見通しとも利益率が改善しているが、一過性要因などは含まれているのか？	• 過去案件においてプラス・マイナスそれぞれの影響があり、ネットして約 30 億円を当期における一過性要因として分析している。それ以外にも、期初計画に織り込んでいなかった新規案件受注による効果や、海外・国内で遂行している案件の利益率改善が着実に進んでいる。
	上方修正後の通期見通しでは、完工総利益が 165 億円の引き上げとなる。要因を整理して教えてほしい。	• 完工総利益の改善要因は、期初に織り込んでいた中東リスクの低下による影響、新規受注による効果などが合わせて約 100 億円、一過性要因が約 30 億円、エンジニアの稼働率の改善による効果が約 25 億円となる。
2	【下期業績の見通し】	
	上期に比べると、下期は利益率が低下する前提となっているが、その背景は何か。	• 2Q（単独）は一過性要因もあり一時的に上振れしたものの、1Q の完工総利益利率は約 10%であり、下期については、通常水準である 10%程度を前提として見込んでいる。
3	【受注パイプラインの進捗】	
	受注パイプラインをみると CCS や SAF に大きな案件があるように見えるが、具体的な期待案件は？	• 個別案件についての説明はご容赦頂きたいが、今までのオイル＆ガスだけではなく、脱炭素関連や電力、ライフサイエンスなどの多様な分野で EPC につながるような案件に取り組んでおり、安定的なポートフォリオ構築に向けて進めていきたい。

#	質問	回答
	FS や FEED に取り組んでいる案件で、1 年前に比べて変化があれば教えてほしい。	• CCS や SAF は着実に進展している。ライフサイエンス案件も着実に進展しており、EPC の実現に向けて取り組んでいる。

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。